

我が国の移植内科医育成における腎移植内科研究会の重要性

令和3年1月14日

現在日本国内で通院中の移植患者さんは腎臓で14,000人、肝臓で8,000人、心臓で700人、肺で300人、膵臓で400人と推計されており、これらの患者さんの移植後管理は主に移植外科医が行って来ました。しかし移植後における拒絶への治療、免疫抑制薬の調整、移植後特有の感染症対策、そして移植後慢性期に問題となる高血圧や脂質異常症、耐糖能障害、癌、腎機能低下等の長期管理はまさに内科的なものと言っても過言ではありません。

特に腎移植においては生体移植前のレシピエント・ドナーの適応評価、献腎移植前の腎臓の評価、移植後のレシピエント・ドナーのフォローアップで腎移植内科医の活躍が期待されます。しかし現在の日本移植学会認定医である内科医は僅か65名で、今後増加が予想される移植患者のためには認定内科医250名と毎年25名の増員が必要と見込まれています。

そこで日本移植学会では、2020年に新たに **transplant physician** 委員会を設置いたしました。本委員会では、全臓器の患者や生体ドナーを移植前から移植後長期まで管理し、移植に関わる学術を振興する内科医の育成、ひいては臓器不全に対する医療の質向上を目標としております。

移植医療発展の歴史において腎移植が常に移植医療をリードしてきました。我が国における移植内科医育成においても、腎移植内科研究会のリーダーシップに大いに期待するところであります。腎移植内科研究会のますますの発展を祈念いたします。

一般社団法人 日本移植学会 **Transplant Physician** 委員会 委員長 布田 伸一
理事長 江川 裕人